

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 09-321637

(43)Date of publication of application : 12.12.1997

(51)Int.Cl. H04B 1/04
H03F 1/02
H03F 3/68
H03G 3/20
H03G 3/30
H03G 5/16

(21)Application number : 08-156177

(71)Applicant : SONY CORP

(22)Date of filing : 28.05.1996

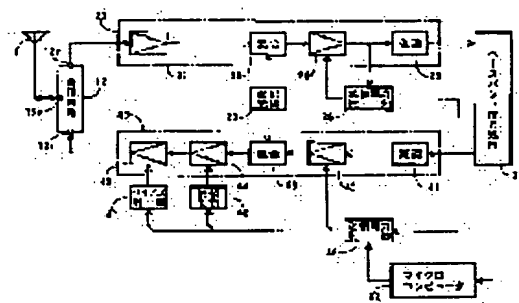
(72)Inventor : ABE MASAMI

(54) RADIO TRANSMITTER AND CONTROL METHOD THEREFOR

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To compensate gain fluctuation of a high frequency power amplifier circuit in the case of switching transmission power in the radio transmitter of a transmission power control type.

SOLUTION: A prescribed high frequency signal is supplied from a variable gain drive amplifier circuit 44. An operating state of a plurality of field-effect transistors (TRs) of a high frequency power amplifier circuit 45 is selected for each group by a bias control circuit 47 controlled by a transmission power control circuit 46 to select transmission power. The transmitter is provided with a compensation control circuit 48 including a generating means for compensation information to compensate a gain fluctuation of the high frequency power amplifier circuit in this switching and the compensation control circuit controls the gain of the drive amplifier circuit under the control of the transmission power control circuit 46.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

(19) 日本国特許庁 (J P) (22) 公開特許公報 (A)

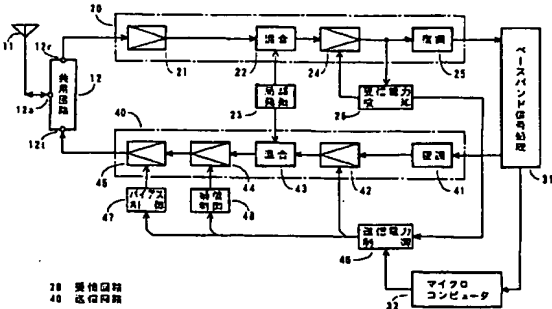
(11) 特許出願公開番号
特開平9-321637
(43) 公開日 平成9年(1997)12月12日

(51) Int. Cl. ⁶		F 1		技術的効果	
H 04 B	1/04	H 04 B	1/04	E	
H 03 F	1/02	H 03 F	1/02	B	
	3/68		3/68	A	
H 03 G	3/20	H 03 G	3/20	B	
	3/30		3/30		
審査請求 未請求 請求項の数 4 F D (全 6 頁) 最終頁に続く					

(21) 出願番号 特開平8-158177
(22) 出願日 平成8年(1996)5月28日
(71) 出願人 000002185
ソニー株式会社
東京都品川区北品川6丁目7番35号
(72) 発明者 阿部 雅典
東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニー株式会社内
(74) 代理人 弁護士 佐藤 正典

(54) 【発明の名称】 無線送信装置およびその制御方法

(57) 【要約】
【課題】 送信電力制御型の無線送信装置において、送信電力削減時の高周波電力増幅回路の利得変動を補償する。
【解決手段】 可変利得の駆動増幅回路44から所定の高周波信号が供給される、高周波電力増幅回路45の複数の電界効果トランジスタの動作状態を、送信電力制御回路46に制御されるバイパス制御回路47により、グループごとに切り換えて、送信電力を切り換える。この切換時の高周波電力増幅回路の利得変動を補償する補償利得の生成手段を含む、補償制御回路48を設け、送信電力削減回路46の制御の下に、補償制御回路により、駆動増幅回路の利得を制御する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 複数の群に区分した複数の駆動素子を含む高周波電力増幅手段と、

この高周波電力増幅手段の所定の送信電力に対応する送信電力制御増幅手段と、

この情報発生手段からの上記送信電力制御増幅手段の動作状態を上記群ごとに切り換える群制御手段と、

上記高周波電力増幅手段に所定の高周波信号を供給するための可変利得増幅手段とを備える無線送信装置であつて、

上記駆動素子の動作状態を上記群ごとに切り換える際の上記高周波電力増幅手段の利得変動を補償する補償情報の生成手段を含む、

上記補償情報と上記送信電力制御増幅手段に基づいて、上記可変利得増幅手段の利得を制御する補償制御手段を設けたことを特徴とする無線送信装置。

【請求項2】 上記可変利得増幅手段が上記高周波電力増幅手段に直接高周波信号を供給する駆動増幅手段である請求項1に記載の無線送信装置。

【請求項3】 上記可変利得増幅手段が上記高周波電力増幅手段に間接に高周波信号を供給する中間周波増幅手段である請求項1に記載の無線送信装置。

【請求項4】 可変利得増幅手段から所定の高周波信号が供給される高周波電力増幅手段の複数の駆動素子を複数の群に区分し、

所定の送信電力に対応する送信電力制御増幅手段に基づいて、上記高周波電力増幅手段の上記駆動素子の動作状態を上記群ごとに切り換えるようにした無線送信装置の制御方法であつて、

上記駆動素子の動作状態を上記群ごとに切り換える際の上記高周波電力増幅手段の利得変動を補償する補償情報を生成し、

この補償情報と上記送信電力制御増幅手段に基づいて、上記可変利得増幅手段の利得を制御するようにしたことを特徴とする無線送信装置の制御方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 この発明は、例えば、携帯電話などに好適な、送信電力制御型の無線送信装置およびその制御方法に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、例えば、携帯電話など、多くの無線通信装置では、消費電力の節減や、他局との干渉低減などのために、送信電力制御が行なわれている。このように無線通信装置では、受信信号レベル、もしくは基地局などの相手局からの指示信号に基づいて、高周波電力増幅回路の駆動信号レベルを変化させることにより、送信電力制御が行なわれるように構成されることが多い。

【0003】 また、低送信電力時の高周波電力増幅回路

の効率を向上させるために、この高周波電力増幅回路に電源から供給される直流電力を、送信電力制御情報に応じて制御する技術が、例えば、特開平1-314431号公報や特開平6-93631号公報などに開示されている。

【0004】 これらの送信電力制御方式では、低送信電力時に、高周波電力増幅回路を構成する電界効果トランジスタのゲート電圧を変化させることにより、あるいは、ドレイン電圧を低減することにより、いずれもドレイン電流を低減して、高周波電力増幅回路の消費電力を減少させるようにしている。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】 ところが、電界効果トランジスタのゲート電圧対ドレイン電圧特性は理想的な直線特性になっていないため、前述のような送信電力制御方式では、利得の低下や歪特性の劣化に制約されて、低送信電力時に、電界効果トランジスタのドレイン電流をあまり低減させることができず、高周波電力増幅回路の消費電力を大幅に減少させることができないという問題があった。

【0006】 このような問題を解消するため、本出願人は、平成7年4月27日の特許出願（整理番号S95021542）において、低出力時に消費電力を格段に低減することができる「高周波増幅回路、送信装置及び受信装置」を既に提案している。

【0007】 既提案の高周波増幅回路では、ソース接地接続の複数の電界効果トランジスタが複数のグループに区分され、各グループごとに、電界効果トランジスタのゲートに共通に接続された、直流阻止用の複数のコンデンサを通じて、入力端子からの高周波信号が、全ての電界効果トランジスタのゲートに共通に供給される。

【0008】 また、電界効果トランジスタのゲートには、各グループごとに、電界効果トランジスタのゲートに共通に、抵抗器を通して、電界効果トランジスタが動作状態もしくは非動作状態となる、所定のゲートバイアス電圧が、例えば、基地局からの送信電力指示情報に応じて、選択的に供給される。

【0009】 そして、各グループの電界効果トランジスタのドレインは、全て共通に接続され、高周波チャークコイルを通じて、電源が供給されると共に、電界効果トランジスタの各ドレインの高周波信号が出力端子に導出される。なお、各グループの電界効果トランジスタの数は必ずしも等しくする必要はない。

【0010】 上述のような構成により、既提案の高周波増幅回路では、送信出力電力が高いときは、全グループの電界効果トランジスタが動作状態とされと共に、送信信号電力が低いときには、幾つかのグループのゲートバイアス電圧を切り換えて非動作状態にする。

【0011】 これにより、既提案の高周波増幅回路では、図3に曲線1pで示すように、例えば、出力電力15 dBm以下の低出力時には、電界効果トランジスタの

うち、ほぼ半駆が動作状態とされるように、ゲートバイアス電圧が適宜に切り換えられて、全体として、ドレイン電流を約1/2に低減することができ、低送信出力時に、利用の低下、至特性の劣化を伴わずに、高周波電力増幅回路の消費電力を大幅に減少させることができる。

【0012】しかしながら、上述のような既提案の高周波増幅回路では、電界効果トランジスタの動作もしくは非動作の制御による、出力電力の切換え時に、例えば、図4に曲線H p、L pで示すように、約1.3 dBの利得変動が生じてしまい、この利得の不連続性が、無線通信装置でないしは無線回路の安定性に影響を及ぼすという問題が生ずる。

【0013】かかる点に鑑み、この発明の目的は、出力電力の切換え時に、高周波電力増幅回路の利得変動を抑制することができ、無線送信装置およびその制御方法を提供することにある。

【0014】課題を解決するための手段]前記課題を解決するため、第1のこの発明による無線送信装置は、複数の群に分けた複数の駆動素子を含む高周波電力増幅手段と、この高周波電力増幅手段の所定の送信電力に対応する送電電力増幅手段と、高周波電力増幅手段の動作状態を群ごとに切り換える群増幅手段と、高周波電力増幅手段に所定の高周波電力増幅信号を供給するための可変利得増幅手段とを備える無線送信装置であって、駆動素子の動作状態を群ごとに切り換える高周波電力増幅手段の利得変動を補償する補償制御手段の生成手段を含み、補償情報と送信電力増幅情報とに基づいて、可変利得増幅手段の利得を制御する補償制御手段を設けたことを特徴とするものである。

【0015】また、第2のこの発明による無線送信装置の制御方法は、可変利得増幅手段から所定の高周波電力増幅信号を供給される高周波電力増幅手段の複数の駆動素子を複数の群に区分し、所定の送信電力に対応する送信電力増幅情報に基づいて、高周波電力増幅手段の駆動素子の動作状態を群ごとに切り換えるようにした無線送信装置の制御方法であって、駆動素子の動作状態を群ごとに切り換える際の高周波電力増幅手段の利得変動を補償する補償情報を生成し、この補償情報と送信電力増幅情報とに基づいて、可変利得増幅手段の利得を制御するようにしたことを特徴とするものである。

【0016】**【発明の実施の形態】**以下、図1および図2を参照しながら、この発明による無線送信装置およびその制御方法の実施の形態について説明する。

【0017】この発明の実施の形態の全体の構成を図1に示し、その要部の構成を図2に示す。

【0018】図1において、周波数分割デュプレックス方式に対応するため、送受信用のアンテナ11が、アンテナ共用回路12のアンテナポート12aに接続される。

このアンテナ共用回路12は、送信側ポート12bおよび受信側のポート12cを備え、所定の特性の帯域通過フィルタ（図示は省略）が、アンテナポート12aと送信側ポート12bとの間と、アンテナポート12aと受信側ポート12cとの間とに、それぞれ接続される。

【0019】アンテナ共用回路12の受信側ポート12cからの高周波信号が、受信回路20の低雑音高周波増幅回路21を通じて、混合回路22に供給される。この混合回路22には、局部発振回路23からの局部発振信号が供給されており、低雑音増幅回路21からの高周波信号は中間周波信号に変換され、中間周波増幅回路24を通じて、後段回路25に供給されると共に、受信電力検知回路26に供給される。

【0020】この受信電力検知回路26の出力が中間周波増幅回路24に負帰還されて、その利得が自動的に制御されると共に、後段回路25の出力はベースバンド信号処理回路31に供給されて、所定の信号処理が施され、音声信号などの受信情報が再生される。再生された受信情報には、基地局などからの送信電力指示情報が含まれており、この指示情報がマイクロコンピュータ32に取り込まれる。

【0021】また、ベースバンド信号処理回路31においては、音声信号などの送信情報に所定の信号処理が施されて、ベースバンド信号処理回路31の出力信号が送信回路40の変調回路41に供給され、変調回路41の出力が、中間周波増幅回路42を通じて、混合回路43に供給される。

【0022】この混合回路43には、局部発振回路23からの局部発振信号が供給されて、中間周波増幅回路42からの中間周波信号が高周波信号に変換され、駆動増幅回路44および高周波電力増幅回路45を通じて、アンテナ共用回路12の送信側ポート12cに供給される。

【0023】なお、中間周波増幅回路42は、送信電力増幅回路46からの送信電力増幅信号により、その利得が制御される。この送信電力増幅信号は、受信電力検知回路26からの受信電力検知情報と、マイクロコンピュータ32からの送信電力指示情報とに基づいて生成される。上述のような構成は、既提案の無線送信装置と同様である。

【0024】図1の実施の形態では、送信回路40の高周波電力増幅回路45に対してバイアス制御を行うバイアス制御回路47が設けられると共に、可変利得の駆動増幅回路44に対して利得補償制御を行う補償制御回路48が設けられる。そして、両制御回路47、48には、それぞれ送信電力増幅回路46からの送信電力増幅信号が供給される。

【0025】高周波電力増幅回路45とバイアス制御回路47とは、次の図2に示すように構成される。また、

補償制御回路48は、例えば、送信電力の所定の切換えレベルと、各切換えレベルに対応する高周波電力増幅回路45の利得変動量とのROMテーブルを含有して構成される。

【0026】図2に示すように、この実施の形態の高周波電力増幅回路45は、既提案の高周波増幅回路と同様に、複数のグループ45a、45b……45jに区分された、複数の電界効果トランジスタQa1、Qa2、……、Qaj；Qb1、Qb2、……、Qbj；……；Qj1、Qj2、……、Qjnを含有して構成され、これらの電界効果トランジスタQa1～Qjnのソースが全て接地される。

【0027】入力端子Tiから的高周波信号が、整合回路2と、その出力側に並列に接続されたコンデンサCa、Cb、……、Cjとを通じて、各グループ45a～45jの全ての電界効果トランジスタQa1～Qjnのゲートに共通に供給される。

【0028】また、電界効果トランジスタQa1～Qaj；Qb1～Qbj；……；Qj1～Qjnのゲートには、送信電力制御情報により制御されるバイアス制御回路47から、抵抗器Ra、Rb、……、Rjを通じて、各グループ45a、45b、……、45jごとに、所要のゲートバイアス電圧が供給される。

【0029】図2の実施の形態では、第1のグループ45aの電界効果トランジスタQa1～Qajのゲートには、電界効果トランジスタが動作状態となるゲートバイアス電圧Vg-onが常時供給される。また、第2～第jのグループ45b、……、45jの電界効果トランジスタQb1～Qbj；……；Qj1～Qjnのゲートには、バイアス制御回路47の切換えスイッチ47b、……、47jを通じて、電界効果トランジスタが動作状態となるゲートバイアス電圧Vg-on、または、電界効果トランジスタが非動作状態となるゲートバイアス電圧Vg-offが、選択的に供給される。

【0030】そして、各グループ45a～45jの電界効果トランジスタQa1～Qjnのドレインは、全て共通に接続され、高周波チャョークコイルLchを通じて、電源Vddが供給されると共に、電界効果トランジスタQa1～Qjnの各ドレインの高周波信号が、整合回路3を通じて、出力端子Toに導出される。

【0031】なお、各グループ45a～45jの電界効果トランジスタの数l、m、……、nは必ずしも等しくする必要はない。また、切換えスイッチ47b、……、47jは、例えば、半導体スイッチとされ、既提案のよう、電界効果トランジスタQa1～Qjnと同じ構造のプロセスで製造化することも可能である。

【0032】次に、この発明の実施の形態の動作について説明する。この実施の形態では、送信電力増幅回路46において、例えば、基地局などからの送信電力指示情報に基づいて、送信電力増幅情報が生成され、この制御情報がバイアス制御回路47および補償制御回路48に

供給されて、高周波電力増幅回路45のバイアス制御と、駆動増幅回路44の補償制御とが行なわれる。

【0033】そして、このバイアス制御および補償制御の結果として、高周波電力増幅回路45においては、高周波電力増幅回路45における電圧制御に伴う利得変動の補償を含んで、利得制御が行われて、駆動増幅回路44の出力レベルが変化する。

【0034】基地局などからの送信電力指示情報により、高周波電力増幅回路45の最大出力での送信が指示された場合、送信電力増幅回路46において生成された送信電力制御信号により、バイアス制御回路47の全ての切換えスイッチ47b～47jが、図示のn個に切り換えられる。

【0035】この場合、ゲートバイアス電圧Vg-onが、全てのグループ45a～45jの電界効果トランジスタQa1～Qjnのゲートに供給されて、全ての電界効果トランジスタQa1～Qjnが動作状態とされ、高周波電力増幅回路45の出力が最大となると共に、消費電流も最大となる。

【0036】また、送信電力指示情報により、高周波電力増幅回路45の最小出力での送信が指示された場合は、送信電力増幅回路46において生成された送信電力制御信号により、バイアス制御回路47の全ての切換えスイッチ47b～47jが、図示のf側に切り換えられる。

【0037】この場合、ゲートバイアス電圧Vg-offが、第2～第jのグループ45b……45jの電界効果トランジスタQb1～Qbj；……；Qj1～Qjnのゲートに供給されると、電界効果トランジスタQb1～Qbj；……；Qj1～Qjnが非動作状態とされと共に、ゲートバイアス電圧Vg-onが、第1グループ45aの電界効果トランジスタQa1～Qajのゲートに供給されて、電界効果トランジスタQa1～Qajのみが動作状態とされ、高周波電力増幅回路45の出力が最小となると共に、消費電流も最小となる。

【0038】そして、送信電力指示情報により、高周波電力増幅回路45の中間出力での送信が指示された場合には、その中間出力の値に応じて、例えば、図1に示すように、バイアス制御回路47の切換えスイッチ47bがn個に切り換えられ、切換えスイッチ47jがf側に切り換えられると共に、残余の切換えスイッチ（図示は省略）は、n側またはf側のいずれかに適宜に切り換えられる。

【0039】この場合には、ゲートバイアス電圧Vg-offが、少なくとも、第jのグループ45jの電界効果トランジスタQj1～Qjnのゲートに供給されて、電界効果トランジスタQj1～Qjnが非動作状態とされと共に、ゲートバイアス電圧Vg-onが、第1および第2のグループ45a、45bの電界効果トランジスタQa1～Qaj；

Qbl₁ ~ Qbmのゲートに供給されて、電界効果トランジスタ Qal₁ ~ Qal_m; Qbl₁ ~ Qbmが動作状態とされ、残余のググループ (図示は省略) の電界効果トランジスタは、中間出力の値に応じて、動作または非動作のいずれかの状態とされ、高周波電力増幅回路 45 の出力および消費電流とは、いずれも最大値と最小値との中間の適宜の値となる。

【0040】 送電電力増幅回路45における、上述のような送電電力切換の際には、制御制御回路48において、前述のようなROMテーブルに基づいて、高周波電力増幅回路45の送電電力の各切換レベルに対応する利得増量量が設定でき、この利得増量量を加減して、増幅増強回路44の駆動出力の制御が行われる。

【0041】即ち、送信電力を低減する場合、高周波電力増幅回路45においては、上述のように、バイアス制御回路47により、電界効果トランジスタが動作状態のグループの数が減少されて、高周波電力増幅回路45の利得が低下する。

【0042】この場合、補正制御回路48においては、ROMテーブルに基づいて、送受信電力増幅回路45の利得低下分が設定され、この利得低下分だけ、駆動増幅回路44の利得を上昇させるような制御信号を発生する。

【0043】また、送信電力を増加する場合は、高周波電力増幅回路45においては、上述のように、バイアス制御回路47により、電界効果トランジスタが動作状態のグループの数が増やされて、高周波電力増幅回路45の利得が上昇する。この場合は、前記増幅回路48においては、ROMテーブルに基づいて、高周波電力増幅回路45の利得上昇分が設定され、この利得上昇分だけ、駆動増幅回路44の利得を低下させるような制御信号を発生する。

【0044】これにより、高周波電力増幅回路45における電力制御に伴う利得変動が、駆動増幅回路44における

いて補償される。

【0045】【他の実施形態】上述の実施形態では、高周波電力増幅回路45の直前の駆動増幅回路44において、高周波電力増幅回路45の送信電力制御に伴う利得変動を補償するようにしたが、更に前段の、中間周波増幅回路42において、高周波電力増幅回路45の送信電力制御に伴う利得変動を補償するようにしてもよい。

【0046】また、上述の実施の形態では、高周波電力増幅回路45の能動素子として、電界効果トランジスタを用いたが、バイポーラトランジスタを用いてもよい。

【0047】

【発明の効果】以上説明したように、この発明によれば、高周波電力増幅回路の能動素子の動作状態を降こうに切り換えて、送信電力を制御する際の利得変動を補償することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明による無線送信装置の実施の全
体の構成を示すブロック図である。

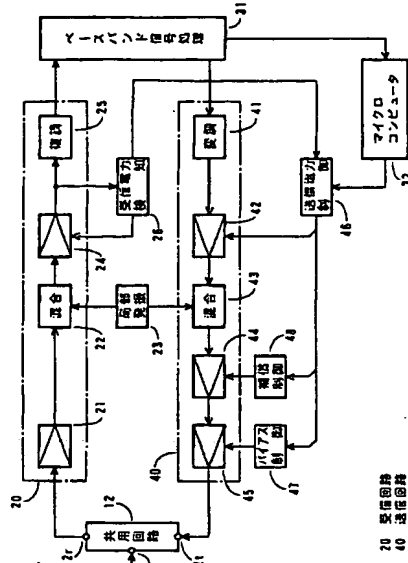
【図2】この発明の実施の形態の要部の構成を示す図である。

【図3】先に提案した無線送信装置の一例の動作を説明するための図である。

【図4】先に提案した無線送信装置の一例の動作を説明するための図である。

【符号の説明】

11…アンテナ、12…アンテナ共用回路、20…受信回路、21…高周波増幅回路、25…復調回路、26…受信電力検知回路、31…ベースバンド信号処理回路、32…マイクコンピュータ、40…送信回路、41…変調回路、42…中間周波増幅回路、44…駆動増幅回路、45…高周波電力増幅回路、46…送信電力制御回路、47…バイアス制御回路、48…補償制御回路、Q… Q_{in} …境界列異トランジスタ



【图2】

